

第4回新たな博物館、美術館に関する基本構想懇談会 会議録（摘録）

- 1 日 時 令和5年1月26日（木） 午前10時00分～正午
- 2 場 所 川崎市役所第4庁舎4階第7会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員 垣内委員、佐藤委員、高野委員、田中委員、保坂委員、八木橋委員
 - (2) 事務局 市民文化局：中村局長
市民文化局市民文化振興室：白井室長、小沢担当部長、井上担当課長、
植木担当係長、功刀職員
川崎市市民ミュージアム：磯崎担当課長、押田担当課長
教育委員会事務局生涯学習部文化財課：竹下課長、阿波担当課長
 - (3) 関係者 株式会社トータルメディア開発研究所：佐藤氏、水間氏
- 4 次 第
 - 1 開会
 - 2 意見交換
 - (1) 新たなミュージアムに関する基本構想（案）について
 - (2) 開設候補地での事業展開等について
 - 3 その他
 - 4 閉会
- 5 公開・非公開の別 非公開

（次第一） 開会

事務局

本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。進行を務めさせていただきます、市民文化振興室担当課長の井上でございます。どうぞよろしく願いいたします。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために様々な対応させていただきますが、スムーズな会議進行にご理解とご協力をお願いいたします。なお、本日は稲庭委員、斎藤委員、西川委員がご欠席で、垣内委員がリモートでのご出席となりますので、よろしく願いいたします。

まず、当懇談会ですが、川崎市審議会等の会議の公開に関する条例によりまして、個人情報に関する事項などを除き公開が原則となっておりますが、本日は政策決定前の「新たなミュージアムに関する基本構想（案）」の内容をご確認いただくために、公開することにより率直な意見の交換が損なわれるおそれや、事業の適正な遂行に

支障を及ぼすおそれがあることなどから、同条例第5条第3号及び第4号の規定によりまして、非公開での開催とさせていただくことをご承知おき願います。

続きまして、本日の議事録は要約方式により摘録として作成することとさせていただきたいと存じます。また、会議録は、川崎市審議会等の会議の公開に関する条例施行規則第5条第2項の規定により、審議会等で指定された者の確認を得るものとされておりまして、当会議録は全ての委員により確認するものとさせていただきたく存じます。なお、本日は非公開の会議であるため、会議録は作成いたしますが、これまでのようなホームページ上での公開は行わないことといたしますので、ご承知願います。

続きまして、お手元の資料の確認をさせていただきます。資料に不備などございましたら、会議の途中でも構いませんので、事務局までお申し出くださいますようお願い申し上げます。また、その他、市民ミュージアム関連のチラシ等もお配りさせていただいておりますので、後ほどお目通しいただければと存じます。

それでは、会議に移らせていただきます。次第に沿って進めさせていただきます。

(次第一 2) 意見交換

(1) 新たなミュージアムに関する基本構想(案)について

事務局

次第の2「意見交換」ですが、前回に引き続き、昨年度の11月に策定いたしました「新たな博物館、美術館に関する基本的な考え方」や、これまでの検討を踏まえまして、懇談会の目的でもある基本構想の策定に向けて皆様からご意見を伺ってまいりたいと思います。それでは、詳しい内容は事務局の担当からご説明をさせていただきます。

事務局

(【資料1】 【資料2】 及び【参考資料】 について説明)

事務局

ありがとうございます。ただいま担当から説明がありました通り、繰り返しのようになりますが、昨年度策定した基本的な考え方をはじめ、これまで懇談会で皆様からいただいた意見や、関係団体及び市民ミュージアムの学芸員等へのヒアリングなど、こうしたものを通じまして、把握できた様々な視点、立場からのニーズなどを踏まえまして、基本構想(案)として取りまとめを行いました。また、開設候補地については、これまで庁内で慎重に議論を重ねながら検討を進めてきたというところもあり、皆様にお伝えするのがこのタイミングになってしまったのですが、被災リスクが少なく、一定程度の延床面積を確保できる場所という要件を満たす場所が市

内にはなかなかないという状況で、今回「生田緑地ばら苑隣接区域」を候補地としてお示ししました。こちらは、周辺に多くの文化施設があり、エリアとしての親和性が高いことをはじめ、市を代表する緑の宝庫である生田緑地という恵まれた自然環境の中に位置することと、関連計画との相乗効果により賑わいの創出やエリア価値の大きな向上につながるポテンシャルを持った場所であることから、市としてはこの場所での新たなミュージアムの開設を目指して、今後の取組を進めてまいりたいと考えております。基本構想（案）はまだ政策決定前の段階ですので、今後も修正が見込まれますが、現時点の内容について皆様からのご意見をいただきたいと考えております。全体を通してのご意見でも、各章に絞ったご意見でも差し支えございません。基本構想（案）の内容はある程度固まってきた段階ではありますが、もっと際立たせた方がよい点や、追加した方がよい点などもございましたら、忌憚なくご指摘をいただければと思います。

それでは、座席順に佐藤委員からご意見をいただきたいと存じますが、オンラインでご参加の垣内委員につきましては、大変恐れ入りますが最後にご指名をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

それでは、佐藤委員からお願いいたします。

佐藤委員

新たなミュージアムについて今まで話をしている中で、「めざす姿」の2番目、「交流・共創の場となるミュージアム」や、交流創出事業など、これからのミュージアムが持つべきものをどのように考えていくかということが、1つの重要なポイントだと考えていました。そういう意味では、市民が日常的に立ち寄りやすい場所にミュージアムを設置することが不可欠ではないかと考えていたので、利便性のよいところでの、都市型のミュージアムのあり方が想定されると想像していました。今回、開設候補地が生田緑地になっていますが、ミュージアムが集積している場所にさらにミュージアムを加えることは、そこに行くと川崎市のものが見られる、観光という視点からするとよいのかもしれませんが、そこを日常的に市民が利用する場所として考えると、必ずしも適切な場所ではないと思います。そこを最適な候補地として挙げるのであれば、やはり、その場所に基づいた機能設定が必要ではないかと考えます。

一方で、まちなかミュージアムという話がこれまでも出ていましたが、前回あたりで、まちなかミュージアムの可能性を拡張するような意見を私自身もお話させていただきましたし、また、いろんな意見も出ていたと思います。ただ、今回の基本構想（案）の中では、市内の既存施設を活用するという事なので、かなり限定的な機能になるのではとっております。そのため、拠点施設を整備することがやはり重要だと考えます。そう考えると、まちなかミュージアムをあまり大きく扱う

ことがよいのか悪いのかということも考えますし、開設候補地を基にミュージアムを考えるのであれば、そこにふさわしい事業なり、めざす姿を考えなおす必要があると思いました。以上です。

事務局

ありがとうございます。まちなかミュージアムはどうしても財政的なところもご
ざいますし、サテライト的なものも検討はしたのですけれど、現実的に実現は難し
い状況で、今、ご指摘があったような限定的な機能になってしまうのではないかと
いう点で、今後開設候補地を前提とした事業展開について、深掘りしていく必要が
あると考えています。ありがとうございました。

それでは、続きまして高野委員、お願いいたします。

高野委員

私もこれまでの内容から随分変わったなと感じました。最も中核となる施設が非
常に象徴的な場所にある、新たなミュージアムの姿を模索するのにふさわしい環境
にあるということは重要だと思います。緑豊かな場所で、且つ、藤子・F・不二雄
ミュージアムのような特徴的なミュージアムもすぐ近くにある場所に、中核となる
施設を構えることの面白さというのは、ご提案を聞いて感じました。

ご検討いただきたいのは、生田緑地が100年後、さらにその先を睨んで、新た
なミュージアムの可能性を試す場所だと捉えていただいて、近隣のミュージアムと
の深い連携と、あるいは、川崎のまちなかにある様々なミュージアム、文化施設も
かなりの数があるかと思うのですが、それらの各館とのネットワークのハブとなる
ような機能を持つことをご検討いただければよいと感じました。

また、事業展開の方向性について、具体的に様々に示されていますが、この5つ
の柱がバラバラに存在するのではなく、他の柱を利用して、自分たちの柱を新しい
タイプのものにしていくとよいと思います。現在の内容でも、読み方によっては、
従来あるものをそのまま並べて、従来通りやっていくようなことをしても、おそら
くこの5つの柱を満たしていくことはできると思うのですが、そうではなく、収
集・保管や調査研究の方法を未来思考で考える、あるいは、交流しながら市民参加
でやっていくなど、それぞれの事業が他の事業を利用しながら実現されていく、そ
して、その事業が、これまではアウトリーチ事業でないと届けられなかった教室の
中などに、日常的に届いていくとよいと感じました。昔の人々の社会や暮らしを考
えましょうという授業で、川崎市で掘り起こされた土器や矢じりなどをすぐに生徒
に示すことができ、「これってどういうものなのだろう」、「専門家の説明を聞
いてみたい」となれば、それについてキュレーターが説明したり、あるいは収録さ
れた学者の説明を聞くことができるなど、そのように、ミュージアムが至るところ

で利用できる、市のどこでも利用できるような状況が実現できればよいと思います。ミュージアムを先端的な形で利用する出店みたいなものが市のいくつかの施設の一部にある、図書館でもよいですし、ミュージア川崎の一部でもよいですから、そういうところにミュージアムの出店があるみたいな形ですね。それでいて、中核となる施設には絶対一度は行ってみようと思わせるような仕掛けがあり、実際に行ってみると驚いてしまうような場所がある。横浜市のドリームランドとか向ヶ丘遊園のような遊園地を懐かしく思い出しますが、そういうところにワクワクしながら行ったような気持ちで、新たなミュージアムの中核となる施設に1回は行ってみようと思える場所を作られたらよいなと感じました。大変よい基本構想だと思います。

事務局

ありがとうございます。他施設との連携という点で、新たなミュージアムがネットワークのハブになれるような施設を目指していきたいということと、5つの柱ですね。こちらについては、相互に連携できるような展開をぜひ考えていきたいと思いました。

続きまして、八木橋委員、お願いします。

八木橋委員

今、お二人の委員からもお話があったのですが、今回の基本構想は大変よく練って作られているなというのが正直な印象です。まず、事務局の担当の皆さまにお疲れ様でしたということをお願いしたいと思います。

開設候補地が示されたので、より具体的なイメージが出たかと思います。高野先生からの御意見にもありましたが、まちなかミュージアムのネットワークも大事ですが、藤子・F・不二雄ミュージアムがあったり、日本民家園があったり、岡本太郎美術館があったり、青少年科学館がありますので、これら手を組みながら、すでにここだけで十分に複合的な構想が膨らむ、様々なことができる可能性が高い場所だと感じています。まさにハブの意味、機能を持ったミュージアムとして動いていく形ができれば、これはうまくやったなという思いがすごく強くあります。ですから、立地的に、非常にうまくつながれる形を作っていけるのではないかと、より期待をさせていただきました。

それと、今回の基本構想（案）には様々な事業が挙がっており、どれも大変魅力的で、また、学芸員についての考え方も載っておりますが、学芸員がいればこれが全てできるというわけではないと思いますので、基本構想ではまだ必要ないかと思いますが、やはり、実際の運営体制を具体的にシミュレートしていかないとけないと思います。事業運営課のような組織を整備し、専従のスタッフは、民間の力も活用しながらやっていくのか、あるいは行政の職員だけで対応していくのかなど

も含めて、具体的なプランが必要になると感じました。あとは、新たなミュージアムを整備した際の基本展示についてですが、これは、多くの収蔵品が水没してしまったため、具体的なプランを早めに練っておかないと、ハコができて、何を、どのようなコンセプトでやっていくのかという計画ができていないとまずいと思いますので、基本構想を策定した後は、現在の市民ミュージアムの学芸員も交えながら、具体的な常設展示のプラン、一体何が可能かということ、早急に検討した方がよろしいかと思っております。開館の時期がいつになるかわかりませんが、その時に慌てないように、現段階から企画展の展開も含めて、長期的な展示プランを計画しておいた方が、後で戸惑わなくて済むと思いました。いずれにしても、これが本当にうまく実現して目に見える形になってきたら、どのように見えるのかというのを非常にワクワクしております。ありがとうございました。

事務局

ありがとうございました。開館時を見据えて基本展示、常設展示をどうしていくかというプランですね。収蔵品が基本的に被災をしまっている状況も踏まえてどんなものができるのか、これは早めに考えて、開館の時に展示資料が全くないのは問題なので、ぜひ考えていきたいと思えます。ありがとうございました。

続きまして、保坂委員、お願いいたします。

保坂委員

ここに書かれている全ての事業が実現できるわけではないということは承知してありますが、全体のイメージや、まちなかミュージアムと拠点となる施設があるという考え方についても、全てを開館と同時に開始しなくてもよいのではと感じています。例えば、対応にあたるスタッフの方々の成長を見極めながら、拠点となる施設の来館者には、開館後に柔軟に対応して、数年がかりで全体のイメージに近づけていくということでもよいと思っています。また、資料に、「市民一人ひとりの中から生まれてくる好奇心に対して、それらを丁寧に汲み取り、高めていくことも必要といえる」と、「多様性への理解」ということが書かれていて、それはすごく必要なことと感じました。

さらに、ミュージアムから一方的に教える、一方通行にはならないということも重要だと思っており、それを実現するためには、ある程度強みとなる部分を持つことも必要かと思うので、全てを開館と同時にスタートしなくてもよいと思えます。特に、まちなかミュージアムは濃い内容でのサービスが必要となってくると思うので、そうするとスタッフの技量が求められ、教育もそれなりの期間が必要になると感じています。

あと、開設候補地に関してですが、アンケートでは南武線沿線への開設を希望するという声が多かったと記憶していますので、そうした方々は、おそらく発表された時には肩を落とされるのではないかと想定しています。そうすると、課題として書かれているアクセスの問題について、若い人にとってはバスに乗るほどでもないが、歩くには少し遠いという場所は、リピーターを呼び込めるかどうかに関係し、運営の継続にも直結することになってしまうため、重要な課題になると思います。

あと、近隣の商業施設や個人の飲食店との連携、もちろん他のミュージアムとの連携も必要だと思います。あとは、生田緑地やばら苑、向ヶ丘遊園地跡地利用計画と共同で一体感がある場所になったら、生田緑地が一日中滞在できる、人が集まれる場所となると思います。建物は建て替わっても、子どもの頃と全く変わらない景色がある場所になると、ふるさとの風景にもなり得ると思うので、八木橋委員もおっしゃっていましたが、私もワクワクしています。

あとは、施設整備について、今回お示しいただいた案なのですが、とても自然な形になっていて、且つ専門性もあって、とてもよいと思いました。特に「学芸員やスタッフの方々にとって働きやすいようなものになるように」という部分が重要かと思いました。

最後に、指定管理者制度の再導入に係る検証とありますが、重要なことだと思っています。ただ、再導入について、市民の中では不安に思う人が少なくないとも考えています。私もその一人です。名称は変わるかもしれませんが、新たなミュージアムが川崎市のミュージアムだという意識を、市民は強く持つと思っています。その観点からも、ミュージアムの根幹に関わる部分は、市の管理が及ぶ状況での再導入が望ましいと思っています。それが開館後、何十年経ってもずっと守られているように、例えば、学芸員さんの最低人数、給与や勤務体系など、重要なことを条例で制定するような検討をしていただければ、市民の1人として安心かと思っています。以上です。

事務局

ありがとうございました。拠点となる施設とまちなかミュージアムの事業展開や関係性など、ここに書いてあるような理想形が開館と同時にできればよいのですが、なかなかうまくいかない。他館の事例などを見ていますと、それが果たして好事例・成功事例なのかというところもございます。若干スタートはトライアンドエラーみたいな形になるかもしれないのですが、そこは数年かけて丁寧に柔軟にやっていければと感じました。ありがとうございます。

続いて田中委員、お願いいたします。

田中委員

基本構想（案）のまとめということで、開設候補地も含めて示していただいたので、全体像がかなり見えてきたなと思いました。今までの議論を基に、しっかりまとめていただいたという点について、担当された方の努力に敬意を表したいと思います。全体像が見えてきましたので、それを踏まえて、気になったところを、少しクリティカルな視点も入れて、数点申し上げたいと思っています。

まず、「新たなミュージアムのイメージ」と書いてあることについてです。これまで、拠点となる施設とまちなかミュージアムの関係を何回かに分けて議論してきたと思うのですが、それは、川崎市がすごく細長い地理的な特徴を持っていて、その間の発展の経緯や、それぞれの地域資源やコミュニティ構造などの文脈が異なることから、どのように全市的なミュージアムを置いていくのかというところから発展したのだと理解をしています。そこには2つの課題があると想定していて、1つは、細長い地理的な特徴から、地理的重心での適地が見つかる保証はないので、それを補う方法を考える必要があるということ。2つ目は、市民がすごく求心力のある中心的な施設に行って展示を享受する、そこに集まって何かをやるというよりは、もう少し現代的なミュージアムのあり方として、自分に近い場所で起こる様々な出来事や体験を通じて、文化芸術を介した新しい展開ができる、市民の身近な場所にミュージアム側が出かけていく必要があるということ。要するに、市民が自ら足を運ぶことも大事なのですが、そして、もしそれを重視するのであれば、ものすごくアクセスのよい場所を選ばなければならないけれども、それは実態的には困難なことです。よって、逆にミュージアム側から腕の丈を伸ばして出かけてきてくれる、それによってミュージアムとの接点や機会が豊富化され、文化芸術に対する接点や自分事としての気付きみたいなものが創出されていくようなことを狙われているのだと理解しています。このような議論を前提とすると、やはり新たなミュージアムの「使命」及び「めざす姿」のあたりに、拠点となる施設とまちなかミュージアムのそれぞれの役割や期待される機能を、もう少し明確に書いておいた方がよいのではないかという印象を持ちました。その上で、拠点施設については、すべての機能を備える大規模な施設を整備するというよりは、適切な規模のものを設けて、効果的かつ効率的に運営していくという、後ほど展開される話が出てくるのかと思います。

さて、そのように考えると、まちなかミュージアムについては、前回も発言したとおり、専用の施設を恒久的に整備することはなかなか難しいと思うのですが、拠点となる施設整備をするミュージアムと役割分担をするということが重要だと考えています。先程の理念を実現するためには、そして、開設候補地が多摩区ということ踏まえると、川崎区や幸区の市民からするとかなり遠く、近くに東京や横浜のミュージアムがあるため、そうした施設と新たなミュージアムが切磋琢磨する関

係になるので、やはりそのことを考えたら、もう少し地理的に不利な場所という特性に対して、ミュージアムが腕の丈を伸ばしていくための方策を考えた方がよいと思います。仮にサテライト施設のような恒久施設を整備することができなくても、時限利用や暫定利用だとか、既存の施設との強い連携、ある種のアライアンスなどを作りながら、戦略的な展開を推進していくということも考えられると思うので、可能であればそのような可能性について基本構想（案）にしっかりと書いておいた方がよいのではないかと思います。そうでないと、結果として開館から10年程度が経過した後、まちなかミュージアムの活動が下火になってしまうというような懸念もあります。基本構想（案）で理念としてしっかり掲げておけば、それを回避することもできます。よって、そのことは少し強く意識して、それぞれの役割や機能を書いて、その上で関係性を整理するということになるのかと思うので、可能な範囲で現在の基本構想（案）を点検していただきたいと思いました。

それから、新たなミュージアムの事業展開について、5つの事業と書いてありますが、これらには基盤となる事業と、展開していくような事業の2パターンがあり、おそらく「収集保管、調査・研究、展示」を基盤となる事業、最も重要な部分として考えていくということが、今までの議論だったかと思いますので、これはおそらく集中的に拠点となる施設に整備をする部分だと思っています。ただ、残りの4つの事業は、まちなかミュージアムの活動を展開、運営、発展させていくための非常に大きな鍵になる部分だと思うので、むしろ施設の中に閉じこもってしまっては困るわけで、比重としては施設に拠点を置きながら、腕の丈をどのように伸ばしていくのかということ意識した事業展開になるかと思います。だから、資料で仮置きされている図だとすべての事業が施設の中に入って閉じてしまっているもので、4つの事業が重なっている部分がもう少し外に、腕の丈を伸ばして出ていくというような図にした方がよいと思いました。

それから、これは言葉尻を捉えるつもりは全くないのですが、「インクルーシブで、敷居の低い事業展開」と書いてあるのですが、「敷居の低い」というのはおそらく様々な意味があって、来館してくれる人に対しての「敷居を低く」という意味かと思うので、先程のように腕の丈を伸ばして届けていくのであれば、敷居の高い低いではなく、それが的確に届くかどうか、アウトリーチがしっかりできるかどうかという話かと思うので、言葉のニュアンスとして誤読されないよう、少し考えてみたらどうかと思いました。

それから、新しく示された開設候補地について少し触れさせていただきますが、適地を探すのは、なかなか大変だろうと思いますので、おそらく事務局、庁内でもかなりの議論を重ねて今回の開設候補地の公表に至ったのかと思います。敷地選定は発注者である市が責任を持ってやっていただくことなので、私たちがとやかく言うことではないとは思いますが、感想に近いような意見として申し上げます。生

田緑地自体はすでに4つのミュージアムを擁している場所でありますので、ここに新たなミュージアムが加わるとミュージアム施設の集積度がかなり高い場所になると思いますので、そのことのメリットが最大化されることも大事かと思えます。他方で、生田緑地は都市にこれだけ近くて自然豊かな場所なので、やはり自然の保護などを非常に重視される市民の方もいらっしゃいますし、これまで施設を立地させていく過程では、やや不幸な出来事も重なったりしている場所でもあるので、そのあたりはしっかり考えていただきたいと思えます。今回検討されているミュージアムの拠点施設は10,000㎡を超える既存施設よりもかなり大きい規模の施設になるので、それを立地させたときのインパクトはどうなるのか、しっかり考えておく必要があります。生田緑地にはそれぞれ特徴的なミュージアムがあるので、必ずしも大きいから有利というわけではありませんが、他館と切磋琢磨した時に、他の施設もそれぞれすごい特色と強みがあるので、それらと切磋琢磨してそういう関係になることも十分意識をした上で、相乗効果を考えていただいた方がよいと思えます。

それから、従来の市民ミュージアムが武蔵中原駅からかなり歩かなければならない場所であったことと同様に、生田緑地ばら苑隣接区域は駅からはかなり歩き、さらに、最後に坂を登る必要もあるので、アクセス性という課題について考えておかなければいけないと思えます。ここで検討する内容ではないのかも知れませんが、都心部の再開発などは新たなモビリティの導入や、駅前にモビリティのためのターミナルを整備することでアクセス性の課題を補うような議論している地区もあります。近未来の動向を踏まえ、生田緑地のその他の施設も含めて、エリア一体となってアクセス改善について総合的に考えていただいた方がよいと思えます。

最後にもう1点だけ、先程議論になっていた民間活力の利用については、関係性がすごく大事かと思いました。文化芸術施設やミュージアム施設の場合は、そもそも受益者負担の考え方がなじまないものですし、収益性や効率性のみを追求するものとは別のタイプの施設のはずです。そういう意味での公共性が議論される性質のものだと認識しています。そして、公共性のある施設は、従来は公共が所有した土地の上に公共が整備し、公共が管理運営をするというものだったのですが、最近では、民間が所有する土地の上に、民間が整備して民間が管理運営するものでも、公共性を兼ね備えた施設が出てきており、今回は拠点となる施設とまちなかミュージアムの関係が出てくるとも考えると、そのあたりをきちんと整理していただくことも重要と思えます。

あともう1つ、これは前回も言ったことですが、新たなミュージアムの整備が完了して管理運営をスタートさせるまでの時間について、現施設の営業と並行して新たな施設を整備し、完成した後に営業場所を切り替えるということが一般的かと思えますが、今回は被災していて、従来のミュージアムが閉館している状態で次の施

設を整備していくという状況のため、この間の移行期間をどのように使うのかがすごく大事だと思います。今まで議論してきたような活動の展開をどのように作れるのか、この期間をうまく使って、他施設との連携や関わってくれる担い手の人たちの育成、そういう人たちの主体的な活動の取組み、多様な主体との新しい連携などを移行期間に創出していくことが重要だと思います。その助走のための事業を、整備のための事業とうまく絡めて作っていくことがすごく大事だと思います。長くなりましたけれど、以上です。

事務局

ありがとうございました。基本構想の中でまちなかミュージアムの打ち出しをしていく以上、開館して10年ぐらい経って「そんなこともあったな」とならないように、戦略的な展開を意識しながらやっていきたいと思っております。また、最後にご発言いただきました移行期間について、そこも非常に大事だと思いますので、無駄にしないように検討を進めていきたいと思っております。はい、ありがとうございます。

最後に、垣内委員、お願いいたします。

垣内委員

本日お示しいただきました基本構想は、非常によく考えられている案だと思います。これまでの経緯や課題、それから様々な意見もきちんと整理されて、非常に分かりやすく全体像が見えるようになったと思っています。その上で、3点ほどコメントさせていただきます。

まず、市民ミュージアムが被災してしまったために新たなミュージアムを整備するというのは、非常によくわかる展開なのですけれども、世の中全体で見ますと、人口減少や超高齢化が進み、政府のあり方も変容し、デジタル化も進んでいくという状況で大きなハコモノを作るというのは、ものすごく抵抗のある状況での出発とも言えるので、戦略的な打ち出しをしっかりしていけないと思います。新たなミュージアムはあと10年後ぐらいにできるのかもしれませんが、その際の社会状況において、市民の方々からコストがかかりすぎるだとか、様々なご意見があるというのも非常に不幸な展開かと思うので、ここでしっかり基本構想を策定し、それがうまく機能するかというところも確認しておくべきかと思います。そのために、ソフトの関係、特に事業や、それに基づいた施設整備の考え方の部分、これがひとつの肝になるかと思います。他の先生方の意見にもありましたが、これを全て実施するのは、全て同時にスタートするというのは難しい感じもしますし、施設も、例えばイベントスペースと多目的スペースとありますが、資料では様々な名称で書かれていますが、適切な規模について理解をいただくためには、1つのス

ペースで様々なことを行っていくことが必要であると整理していると理解いたしました。今日では、一般的な考え方として、毎日何かやっている、利用されているような状況でないと、そこは無駄な空間ではないかと指摘されてしまう部分もあるかと思っています。

また、ミュージアムの場合は、民間の活力を導入すると言っても、財政的に自走化できる組織ではなく、どうしても公的な助成が入りますから、ご説明がありましたように、必要最小限のものにしなければならないし、そこで何をやるのかということがハードを決めていくので、実際にどのような活動、事業を行うのかということが非常に重要なスタートラインになると思います。その意味で、資料で示している事業を具体的に計画に落とし込む際には、もう少し現実を見ていく必要もあるかなと思います。すでに十分な人数のキュレーターを自由に雇えるという時代ではなく、キュレーターを中心に、市民やNPOなど関心のある方々が共同・共創していくと書かれていますが、そのような現実的な、活動可能な部分も抑えつつ、最も効果的なところに焦点を当てていくという整理の仕方も必要かと思いました。

基本構想（案）に書かれていることに反対しているわけではないのですが、基本計画等の策定にあたっては、現在市民ミュージアムは休館していますが、市内の文化施設等で、被災していない収蔵品を活用しながら、ミュージアム活動を行っていて、被災された収蔵品についても、修復されたものについては、その修復のプロセスも含めて展示していますので、ある意味ではソフト事業が先行して実施されている状況にあると思います。このソフト事業は、まさに基本構想（案）で示しているまちなかミュージアムの先行版、トライアル版だと思いますので、トライアル版が既に様々な形で行われていて、実際に成果も上がっていて、実績もあると思いますので、これをうまくまちなかミュージアムに収斂させていく、現在の活動の成果や効果をフィードバックしながら、どこを膨らませて、どこまでができるのかということを探査していくと、より実践的な、現実的な可能性を伴って考え方を整理できるのではないかと思います。ミュージアムが所有するコレクションには、温湿度管理、安全性の問題等様々な制約があると思いますが、そのような調整にどの程度コストが必要で、実際にやってみてどの程度の効果があったのかをその都度検証されていると思いますので、それを総括して、まちなかミュージアムにうまく繋げていけると、時代を先取りしたよいミュージアムになっていくのではないかと感じております。

2つ目は、ハードについて、先程も少し意見しましたが、主な諸室については何らかの空間が必要なことは確かだと思いますし、多目的と言っても、ホールなんかでは無目的と言われて、どうしても中途半端になってしまうこともあるので、やはり、何をどのようにやるかをもう少し精査した上で、1つのスペースを多目的スペースとして、イベントスペースにも使用できたり、アーティストが様々な活動をす

るのにも使えるような、そういう整備をすれば、より効果的・効率的に使っていただけるようになると思いました。

生田緑地ばら苑隣接区域については、知恵を絞られたのだなという感じがします。ミュージアムクラスターとなることがメリットかと思います。指定管理者により運営されていた、コロナ禍以前の市民ミュージアムは、生田緑地より不便な場所だったかと思いますが、年間30万人程度の来館者が訪れていました。生田緑地自体は、コロナ禍以前は100万人を超えるお客さんが来ていて、藤子・F・不二雄ミュージアムが最も来館者が多く、他のミュージアムも、青少年科学館で20万人程度、日本民家園が10万人を超えるような人数で、岡本太郎美術館も10万人程度の来館者がいるような場所なので、さらにもう1つ魅力を追加するという意味でも、上野公園とその近隣の施設と同じような形で、様々な意味で大きな魅力を発信できる土地になる可能性を秘めていると思います。ただ、基本構想（案）にも書かれているように、どうしても駅から距離があり、近隣にはお店が少なく、最後はバス通りを歩いて向かうこととなりますが、周辺エリア自体がホスピタリティ関係のショップが集まっているというわけではない場所でもあるので、今後、エリア自体の様々な再開発の動きや計画があるということですから、ぜひそこに積極的に参画して、ミュージアムの来館者が周辺の商店街等にも回遊できるようなエリア計画を作っていただきたいとも思います。生田緑地自体は、関係の方々非常に強く関わっており、これまでも努力をされてきた場所ではありますが、ばら苑の周辺については、割とコンセンサスは得られやすい場所なのかもしれませんが、自然への配慮は当然必要かと思えます。いずれにしても、ポテンシャルは大きい場所かと思えます。

また、マネジメントについて、生田緑地は全体のPRとハコの維持管理を含めて指定管理者が運営を行っていますが、学芸部分は市が直接運営している、学芸分離の管理運営を行っている全国でも珍しい場所です。学芸分離の管理運営が導入されてから数年が経ちますが、ようやくそのシナジー効果をキュレーターも実感するようになってきました。広報は指定管理者が得意なので、生田緑地全体の広報を行ってもらい、自分たちが学芸業務に専念できるというメリットもありますし、生田緑地全体として様々なところに表出することで、より大きな広報効果が出てきていることも実感されているようですので、そうした既存の管理運営方法についてもよく検討し、よりよい手法を選択されるとよいと思います。藤子・F・不二雄ミュージアムの場合は、どうしても著作者や著作権団体との関係があるので、維持管理も含めて指定管理者制度を導入しているようですが、新たなミュージアムは学芸分離という手法を選択するのもよいと思っております。

3点目ですが、現在の内容はキュレーターがいて、市民を巻き込んでいくという発想かと思うのですが、もう1歩進んで、市民の方々が主体的に動けるミュージア

ム、キュレーターと一緒に活動できるミュージアムとして打ち出していく必要があると思います。人材育成について、「市民コミュニケーターをはじめ、様々な形でミュージアム運営に携わる人々が活動するための機能」と書かれていますが、これは、市民の方々に当事者意識を持ってもらう、自分のミュージアムだということを確認していただき、さらにそれを活用していただくというポジティブな面と、もう1つ、財政的に自走化できないと言いましたけれども、地方自治体が、単独でミュージアムを、法的な支援だけで成り立たせるといっても現在では極めて難しい状況です。特に、被災した収蔵品の修復関係については、点数も多く、ものすごい金額と時間がかかります。そこで、市民のお宝ですから、関心を持つ方々に積極的に関わっていただく必要があると思いますので、特に被災コレクションの修復との関連についての市民の方々の関与という内容を全面的に書き込んでもよいと思いました。以上、3点です。ありがとうございます。

事務局

ありがとうございました。先程上野公園のような形という話もありましたが、生田緑地のエリア価値の向上に向けて、新たなミュージアムが、ミュージアムクラスターの1つになれるように展開していきたいところと、現在市民ミュージアムがアウトリーチ事業として行っていることを、まちなかミュージアムのトライアル版としてやっていくということ。新たなミュージアムの開設まで期間がございまずので、さらに実績を積み上げて、それをうまく新たなミュージアムに繋げられるようにしていきたいなと感じました。

委員の皆様、様々なご意見ありがとうございました。いただいたご意見を踏まえて、引き続き庁内での検討、精査を進めて、今年度中に基本構想（案）を公表したいと考えております。公表した後ですが、パブリックコメント手続を行いまして、正式な基本構想を5月から6月頃に策定する予定でございますので、スケジュールが決まり次第、委員の皆様にも情報提供をさせていただきたいと思います。また、基本構想策定後ですが、次のステップでございます基本計画の策定に向けた取組を進めてまいりまして、基本計画では開設地の正式決定や、より具体的な事業の内容、また諸室構成などの施設整備、管理運営体制の検討等についてさらに深度化したものをお示ししたいと考えております。基本計画の策定期間につきましては、令和7年度までの川崎市総合計画第3期実施計画の期間内での策定を目指しているところでございます。

(2)「開設候補地」での事業展開等について

事務局

続いて、基本構想に記載するというものではありませんが、基本計画の策定に向けた取組を進める上での参考とさせていただくために、新たなミュージアムを開設するにあたって、開設候補地である生田緑地ばら苑隣接区域ではこんな取組ができるのではないかと、あるいは、こんな施設にすると面白いのではないかと等について、皆様からご意見をいただきたいと思っております。時間に限りがございますので、挙手制とさせていただきたいと思っておりますが、まず、発言のきっかけ作りとして、生田緑地ビジョン推進会議の委員でもございます垣内委員より、ご意見をお聞かせいただければと思います。

垣内委員

はい、それでは3点お伝えできればと思います。

まず、生田緑地ビジョンについてですが、まだ議論が始まったばかりで、生田緑地の全体像を議論している段階ですが、現在はナラ枯れという伝染病の蔓延が大きな問題となっています。それ以外の文化芸術の分野で言うと、たくさんミュージアムがあるので、これをうまく活用して、周辺エリアの計画とうまく結びつけて回遊性を高めて、市民の方々への利便性を高めると同時に、外からやってくる方々も多い場所ですので、そうした方々も回遊できるように、生田緑地だけではなく、周辺全体も考えて整備をしていく必要があるという議論を行っています。

2つ目は、先程もお話しましたが、生田緑地を管理運営している指定管理者が非常に積極的に広報宣伝をやっていることで、若干制約があるにせよ、生田緑地と一緒にすることで、新たなミュージアムの基本的な活動や、交流創出、普及、未来思考、未来創出事業等の活動を効果的に広報、宣伝することできると考えています。令和6年度に全国緑化フェアが開催され、生田緑地はその拠点になるのですが、これを一過性のイベントにせず、レガシーとして活動を継続するという議論になっていますので、その中に新たなミュージアムが組み込まれることによって、より多くの方々へ広報ができるようになるのではないかとという面では、非常に大きなメリットがあると思います。

3つ目は、ここは公園緑地で自然環境が非常に豊かにありますので、ミュージアムの中で活動する、あるいは鑑賞するというだけでなく、周辺の緑の空間を活用したイベントが計画できるという意味では、ミュージアムの前庭が非常に広がるような感覚になるため、今、お正月に東京国立博物館が上野公園で餅つきをやっているのですが、そうした従来の壁を越えた様々なイベントが行いやすくなる、ポテンシャルが広がるのではないかとと思います。まちなかミュージアムも壁を越えた展開のひとつかと思うのですが、拠点施設でも同じような、物理的に壁を越えた展開ができるようになると思います。

あと、巡回バスのようなサービスがあるとよいと思います。現在も藤子・F・不二雄ミュージアムにはありますが、そうした交通の接続が今一つのところがあるので、新たなミュージアムができるということであれば、交通の連携や、他のミュージアムとの連携も考えていただけるとよいと思いました。以上です。

事務局

ありがとうございます。それでは、他の委員からもぜひ、ご意見をと思います
が、いかがでしょうか。

田中委員

たまたま私は職場も住まいも多摩区にありますので、そういう意味では近くにミュージアムができて、ミュージアムクラスターが充実していくのは歓迎すべきこと
と思うのですが、先程も申し上げましたように、ミュージアムが単体で提供できる
ものと、周りにある既存のものと連結して提供できるものと考え、やはり後
者の連携によるシナジー効果みたいなものがすごく大事になると思うので、それを
どう考えていくかだと思います。あと、先程垣内先生がおっしゃっていたように、
今、市民ミュージアムが休館した状態で他施設を活用して行っている活動が、ま
ちなかミュージアムに代表されるソフト事業の先行実施形態だと考えると、それをど
のようにうまく使っていくのが課題となるかだと思います。

さて、この生田緑地に関して言うと、開設候補地の横にはばら苑があつて、年に
2回公開していますので、新たなミュージアムの開設に向けた広報を行う中で、ば
その期間は、今までミュージアムにあまり来ていなかった市民との接点を持てる機
会になると思うので、そういう暫定的な、期間限定な展開をすることもできるか
もしれません。また、開設候補地の隣には、最新の状況は詳しく存じ上げないで
すが、小田急の開発計画が予定されていて、以前に公表された内容では、温泉施設
を中心に整備していくということだったかだと思いますので、そこの関係につき
も考えられたらよいと思います。

あと、もう1つは、例えば、藤子・F・不二雄ミュージアムや日本民家園、青少
年科学館、岡本太郎美術館などと、常時ではなく、限定的に、コラボレーシ
ョンをして、企画展やまちなかミュージアムとしてアウトリーチすることを考
えるなど、地の利があつて施設間の連携を考えやすいと想定されますし、ま
してや指定管理者による全体での広報もできるのですから、そのような打ち
出し方もあるのではないかと思います。

あと、直接は関係ないですが、新たなミュージアムの最寄駅となる登戸駅
や向ヶ丘遊園駅の周囲では、現在、市施行の大規模な土地区画整理事業が
行われており、間もなく完成に近づいてくるとは思います。例えば、登戸
駅前の交通広場などの整

備のスケジュールは、新たなミュージアムの整備と重なる可能性があるので、アクセス面の課題の改善に向けた検討や、整備の過程や工事の状況により生まれてくるかも知れない暫定地の活用などを含めて、そうした場所を積極的に活用していくのもよいと思いました。

事務局

ありがとうございます。生田緑地につきましては、アクセスの課題等もありますが、様々な地の利もございますので、そうした面を最大限に活かして展開をしていければと思います。他の委員はいかがでしょうか。

保坂委員

素人が地図を拝見して浮かんだイメージという前提で話をしてしまいましたが、例えば、新たなミュージアムの休憩室で、生田緑地の借景を思いっきり利用して、他には無いような景色が見えるようにするということが考えられると思いました。また、日本民家園の近くにあるので、そこで新たなミュージアムの民具を展示して、実際に古民家の中で民具を動かしてもらうとか、昔の人が実際に食べていた穀物を生田緑地の中で育てて、それを子どもたちが刈り取って、民家園の中の民具で実際に食べられるような体験をすとか、また、生田緑地の中に古墳や遺跡、城跡など各種の遺跡もありますので、それを解説付きで詳しく見るとか。また、10年後には開発されているかもしれない安全な乗り物で各ミュージアム間を繋いで、その乗り物であちこちに行って、1日で何館ものミュージアムを見ることができるとか、将来できればよいなと思いました。以上です。

事務局

ありがとうございます。緑地内の施設で様々な形でコラボできればということだと思います。

それではご意見が出尽くしたようでございますので、終了とさせていただきますと思います。

(次第一 3) その他

事務局

それでは次第一の「(3) その他」ですが、事務局から何かありますでしょうか。

事務局

改めまして、事務局でございます。冒頭ご説明させていただきました通り、本日の

会議は非公開でございますので、会議録の正式な公表というものはございません。ただし、いつも通り、会議録を作成次第共有させていただきますので、ご確認をいただきたいと思っております。また、本日ご欠席の稲庭委員、西川委員、齋藤委員につきましても、個別にヒアリングを実施し、今回の資料についてご意見をいただきまして、その結果につきましても、併せて皆様に共有させていただきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いたします。以上でございます。

(次第一 4) 閉会

事務局

はい、ありがとうございます。それでは、最後に閉会にあたりまして、小沢担当部長から一言ご挨拶をさせていただきたいと思っております。

小沢担当部長

全4回懇談会を開催させていただきまして、私個人も、市としても、非常にたくさんのご意見をいただき、よい基本構想(案)ができたと思っています。その中で、今日も様々なご意見をいただきまして、開設候補地が生田緑地ばら苑隣接区域となった経過は様々にあるのですけれども、特にばら苑との連携ですとか、藤子・F・不二雄ミュージアムが近くて、それから、田中委員からもありましたが、小田急の計画もあって、生田緑地全体もそうなのですが、特に近い場所での連携みたいなところもうまくやって、回遊性のシャトルバスみたいな話もありましたが、そういうところも含めてよいミュージアムにしていければと考えております。それから、ミュージアムができるまで6年ぐらい、実質的にかかると思うのですけれども、その間に準備できることはたくさんあると思っておりますので、そのあたりもしっかりやっていきたいと思っております。また、現在もアウトリーチで様々なイベントをやっていますが、そこもしっかり検証して、まちなかミュージアムのよい形に繋げていければと思っています。

ただ、まちなかミュージアムについて、先程田中委員からもありましたが、生田緑地という場所は川崎区や幸区からかなり距離があるところで、そこは本当に難しいと思っているのですが、区役所や市民館など、各区に拠点がありますので、行政の施設とうまく連携しつつ、様々な企業もありますので、そうしたところもうまく絡めながら、上手な形でやっていければと思っています。今後基本計画を策定していくにあたりまして、そういうところを具体化していく中では、やはり簡単にはできないことが多いので、一番重要な問題は人材の問題だと思っています、懇談会でもかなりいろんなご意見がありましたので、そここのところは、予算の関係もありますが、行政だけではできないので、どうやって市民を巻き込んで、市民と一緒にやってうまくやるような形を考えていければ、よりよいと思っています。

今回で基本構想懇談会は終わりますが、この後、基本計画を策定していくにあたりまして、委員の先生方には様々にお世話になると思いますので、ぜひ、今後も引き続きよろしくお願ひしたいと思っています。本当に、今年度4回、どうもありがとうございました。

事務局

はい、ありがとうございました。それではこれを持ちまして、第4回新たな博物館美術館に関する基本構想懇談会は閉会とさせていただきます。改めまして、委員の皆様につきましては、お忙しいところ1年間ご参加くださいまして、本当にありがとうございました。